

# 総合計画推進委員会検証結果まとめ

## 重点項目 1

- ・農業後継者の育成、確保に関しては、後継者を対象とした農業技術や経営に関する各種学習会や交流会を開催しており、後継者の育成に寄与しているものと考えられるが、今後、家族経営だけでなく地域として農業の担い手を育てていくという視点から法人化を推進する方策の検討も必要である。(イ)
- ・企業誘致に関しては、町独自の優遇支援措置を講じ誘致促進を図っているが、町が主体的かつ積極的に企業誘致に関与することが結果につながると考えられることから、町がリーダーシップを発揮し力強く施策を進める必要がある。また、各地域におけるスマートインターチェンジの導入等によってIC工業団地と道東自動車道の利便性の関係が今後も続くかどうかは不透明であるので、早い段階で企業誘致に関する対策が必要である。(オ)
- ・新たな観光や特産品の開発等に関しては、温泉や景観など地域資源を活かした商品開発が実施されているが、個々の事業者が原材料生産、商品開発、販売まで手がけることは難しいことから、核になる人材を誘致し支援する体制づくりの検討も必要である。(カ・キ・ク・ケ)

## 重点項目 2

- ・自然環境の保全と再生に関しては、森林の除伐、間伐、新植などの管理が実施されているが、森林の育成を図るとともに、地元木材を利用した特色ある公共施設など地域産業の活性化施策の検討も必要である。(ア)
- ・地球温暖化防止対策に関しては、音更町地球温暖化対策実行計画により町の公共施設における温室効果ガス排出量の削減が進められているが、今後は町全体としての目標値を持つなど町民、企業、町が一体となった対策の検討も必要である。(イ)

## 重点項目 3

- ・自主防災組織の育成に関しては、各地域において町内会をベースにした組織の結成が進められているものの、個人情報保護の意識の高まりにより連絡網のない町内会も存在していることから、緊急時に防災体制が機能しないことがないように仕組みづくりの検討が必要である。(ア)
- ・歩行者の安全確保に関しては、街路灯などの整備が実施されているが、防犯上の観点から車道側だけでなく歩道側を照らす街路灯の設置の検討も必要である。(イ)
- ・水道などのインフラ整備については、水道の未整備区域の解消のため区域拡大を図っているが、将来的には維持管理費の増大など問題もあることから、今後、一定の地域にまとまって住むなど集約型のまちづくり（コンパクトシティ）の考え方も検討する必要がある。(キ)

#### 重点項目 4

- ・生涯学習に関しては、リーダーバンク制度や熟年先生講座などに取り組んでいるが、今後協働のまちづくりを推進するためには、生涯学習で学んだことを活かし、まちづくりに関わることのできる人材の育成・確保を図る必要がある。(カ)
- ・芸術文化の振興に関しては、各種事業を展開しているが結果として文化センターの利用人数が微減しており、町民アンケートにおける満足度も低いため、町民のニーズを踏まえ、芸術文化に触れる機会の充実を図るなどの対策が必要である。(コ)

#### 重点項目 5

- ・青少年の健全育成に関しては、青少年だよりの発行などを通じて地域との情報の共有化を図っているが、青少年の育成に関しては町内会が担っている役割が大きいため、町内会への加入促進など活動の活性化を図る必要がある。また、子どもたちを犯罪などの危険から守るため、緊急時の情報網としてコンビニエンスストアや子ども110番の家などに情報が流れる仕組みの検討も必要である。(ウ)
- ・学童保育所に関しては、安全管理のため適宜修繕等を行っているが、老朽化が進んでいる施設もあるため、計画的に施設整備を進める必要がある。(ク)

#### 重点項目 6

- ・コミュニティバスに関しては、毎日の利用者数により利用状況の把握を行っているが、更なる利便性の向上のためには、今まで利用できていない人の意見をくみ取りつつ、定期的な乗降調査や利用者アンケート等の実施を検討する必要がある。(ア)
- ・高齢者福祉に関しては、町内会ごとに高齢者が自主的に気軽に集まれるサロンのような場所を設置するなど既存の予防介護施策との連動を検討する必要がある。(ウ)

#### 重点項目 7

- ・まちづくりへの町民参加に関しては、「潤いと思いやりの地域づくり事業」などの実施により地域のまちづくりの中心的役割を担う町内会活動の活性化に寄与しているものと考えられるが、町内会未加入者が増加傾向にあることから、さらに施策を進める必要がある。また、パブリックコメントについては、意見数は増加傾向にあるが、未だ一般町民が意見を出すことはハードルが高いと思われることから、周知方法も含めてもっと参加しやすい仕組みを検討する必要がある。(イ)
- ・広報紙に関しては、見やすくわかりやすい紙面づくりに努めているが、モニター制度の導入などチェック機能の検討も必要である。また、現在町内会を通じて配布を行っているため町内会未加入者は公共施設やコンビニエンスストアで入手することになるが、もっと多くの町民に読んでもらえるような方法を考える必要がある。(エ)
- ・町の情報の公開に関しては、災害情報については携帯電話のエリアメール等も活用して周知する仕組みになっているが、その他の情報についても広報紙やホームページの他に町内の店舗等で周知してもらおうなど新たな情報発信ツールの検討も必要である。(オ)

## ○検証方法等に関する意見

- ・施策の数値を表す代表的な数値は低下しているのに推進状況では高く評価されている場合があり、推進状況の検証方法がわかりづらい。
- ・推進状況の評価数値については、5段階の3を基準として進捗を評価した方が理解しやすい。
- ・予算に対して少ない費用で高い効果を得ることに対する評価の考え方も必要である。
- ・評価調書の内容が漠然としているため、提言等を行うことはできるが、これに対して評価を行うのは難しい。
- ・定めた目標に対してどこまで進んだかを押さえておかないと、何が問題で次に何を進めるべきかが理解しづらい。施策が進まない理由を検証することが推進委員会の意義だと思う。
- ・この調書に意見を入れていくことは難しい。専門用語を理解できないものもあったので補足資料があってもよいと思う。
- ・委員会の構成について、全ての分野を全員で引き受けるのではなく、分割して専門の方に入ってもらいなど少人数で進めた方が推進状況のチェックがしやすいと思う。
- ・検証項目が多いため、一遍に進めるのではなく項目を絞って検証するという手法も検討すべきではないか。

## ○その他意見等

- ・この委員会に参加することで町が行っている色々な仕事を理解することができた。
- ・自分の専門以外の分野で全体を理解しないまま発言するのはなかなか難しい。様々な角度から行政のあり方を考えていかなければならないと感じた。